

## 完了後の評価個表

整理番号	3
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
地域（地区）名	いぶりとうぶ 胆振東部	事業実施主体	道、市町、森林組合、森林所有者等
関係市町村	とまこまい 苫小牧市ほか4町	管理主体	道、市町、森林組合、森林所有者等
事業実施期間	H23年度～H27年度（5年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区はむかわ町から白老町まで東西に長く延びた区域で、南は太平洋に面し、西に樽前山、支笏湖、東は日高山脈へと続く勇払平野を中心とした区域である。</p> <p>本地区の森林面積は162千ha（森林率70%）、対象民有林は98千ha、うち人工林は34千ha（人工林率34%）となっている。</p> <p>人工林の齢級構成は、Ⅹ齢級以上の人工林の割合が70%で資源として十分成熟しているため、木材の利用拡大が重要となる。しかし、林業を取り巻く環境は労働条件の改善が進まないなど依然として厳しい状況にある。</p> <p>そのため、基盤となる路網の整備、さらには森林組合や林業経営体の事業量の安定確保と生産性向上、後継者の育成などを進め低コストでの林業経営を目指し、関連施策の積極的活用を図りながら、持続可能な森林経営と地域の実情に応じた計画的な間伐、保育等の実施などの森林整備を推進することが望まれる。</p> <p>本地区は民有林における人工林の樹種別面積は、カラマツが約6割、トドマツが約2割を占めている。齢級構成ではカラマツ及びトドマツにおいて、主伐期を迎えるⅧ齢級以上が多くなっており、これらの人工林において積極的な主伐が行われているが、採算性の悪化や森林所有者の高齢化などから森林所有者の森林づくりに対する意欲や関心が薄れ、森林経営計画が認定されていない森林も多く、それら森林において、間伐等の森林整備が進まない事例が多くなっている。</p> <p>このため、本地区内の森林の有する水源涵養機能や山地保全機能などの公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐などの森林整備を積極的に推進するとともに、これらを効率的に推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 15,145 ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p style="padding-left: 40px;">路網整備 5,616 m 林道開設</p> <p>・総事業費 5,151,101千円（税抜き 4,845,873千円） （平成22年度の評価時点 4,550,180千円（税抜き 4,333,505千円））</p>
-----------------	--

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和3年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、労務単価の上昇や事業実施期間内に新たに路網整備の計画を追加したことが原因である。</p> <p>総便益 (B) 55,077,673 千円 (平成 22 年度の評価時点 38,788,408 千円※)</p> <p>総費用 (C) 10,631,283 千円 (平成 22 年度の評価時点 6,952,559 千円※)</p> <p>分析結果 (B/C) 5.18 (平成 22 年度の評価時点 5.57※)</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>本事業で植栽されたカラマツなどの計画的な保育を実施したことから成長は良好で、間伐等の施業を行った箇所とともに多様な環境を持つ健全な森林として育成されており、木材生産のほか、水源涵養、山地保全等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到着時間の短縮や資材運搬等が容易になるとともに、大型車両による木材運搬が可能になり、事業地から林道までの搬出距離が短縮され、木材生産の経費の縮減が図られた。</p> <p>さらに、森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営委託された森林組合が適正に管理を行っており、下刈等の保育施業を適期実施している。</p> <p>また、整備された路網は、草刈りや路面の整備等を行うなど、適切に維持・管理を行っている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>林内の照度が確保された単層林や複層林、針広混交林が整備されたことにより水源涵養、山地保全等、様々な公益的機能が発揮され、また、森林の景観も向上している。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、路網整備により作業現場へのアクセス改善や集約化による森林施業コストの低減が図られることで、森林所有者による森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p> <p>また、平成 30 年北海道胆振東部地震による災害復旧に向けた取り組みも求められている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に高まってきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <p>平成 30 年北海道胆振東部地震により被災した森林の早期復旧に向けた取り組みを行う必要がある。</p> <p>地元の意見： (北海道)</p>

	<p>森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している</p> <p>(安平町)</p> <p>町内の水源地周辺では、保安林に指定されている森林が多く、森林の有する公益的機能の総合的かつ高度な発揮が求められることから、森林整備事業により計画的な伐採・造林・保育管理を推進する必要がある。</p> <p>(厚真町)</p> <p>町内の人工林は、カラマツを中心に伐期を迎える林分が多く存在することから、計画的な伐採・造林等を進め、森林の有する公益的機能の高度発揮に努めた森林整備の推進を図る必要がある。</p> <p>(苫小牧広域森林組合)</p> <p>森林施業の集約化を図り低コスト化を推進し、森林所有者の林業経営意欲の向上を図るため、計画的かつ効率的な森林施業の実施に努める必要がある。</p>
<p>評価結果</p>	<p>必要性： 間伐等の森林整備等を通じて、水源涵養機能の発揮や山地保全等が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所路網を開設することにより、コスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与している。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取り組みが進められていること等から事業の有効性が認められる。</p>

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：北海道

地域(地区)名：胆振東部


(単位：千円)





大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	15,083,713	
	流域貯水便益	3,622,274	
	水質浄水便益	13,374,211	
山地保全便益	土砂流出防止便益	14,206,069	
環境保全便益	炭素固定便益	3,996,157	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	38,247	
	木材利用増進便益	15,597	
	木材生産確保・増進便益	4,158,959	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	582,446	
総 便 益 (B)		55,077,673	
総 費 用 (C)		10,631,283	
費用便益比	$B \div C = \frac{55,077,673}{10,631,283} = 5.18$		



# 森林環境保全整備事業 胆振東部地区 概要図

胆振東部地区

	森林整備
①	林道 147-2林班線
②	林道 富内第2線
③	林道 10・11林班線
④	林道 芭呂沢支線

凡 例	
市 町 村 界	
施工箇所(林道整備)	
計画箇所(林道整備)	
施工済み(林道整備)	

※背景地図に地理院地図を使用しています。